

標準委員会 システム安全専門部会 定期安全レビュー分科会
第24回 (P6Ph2SC24) 議事録

1. 日 時 2013年6月25日 (火) 13:00~16:00
2. 場 所 原子力安全推進協会 三田ベルジュビル13F 第1・2会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 岡本主査 (東大)、伊藤副主査 (JNES)、成宮幹事 (関電)、上野委員 (MRI)、
倉本委員 (NEL)、林代理 (関電) (左藤委員代理)、
鬼沢代理 (JAEA) (中村委員代理)、服部委員 (原電)、山崎委員候補 (原電)、
平川委員 (原安進)、藤本委員 (JNES)、村上委員 (東大)、
渡辺 (哲) 委員 (中部電)、渡辺 (沖) 委員 (東電) (13名)
(欠席委員) なし
(常時参加者) 古賀(電発)、重久(九電)、日渡(電中研)、松浦(四電)、三山(NEL)、角田(東電)、
下川(原安進)、森本(中国電)、田淵(北海道)、曾根(東北) (10名)
(傍聴者) 福永(九電) (1名)

4. 配付資料

P6Ph2SC24-0	第24回PSR分科会議事次第
P6Ph2SC24-1	第23回PSR分科会議事録 (案)
P6Ph2SC24-2-1	人事について
P6Ph2SC24-2-2	定期安全レビュー分科会名簿
P6Ph2SC24-3-1	改訂実施基準案 (1~6章)
P6Ph2SC24-3-2	実施基準案(4章)とSSG-25比較表
P6Ph2SC24-3-3	改定実施基準案 (7章)
P6Ph2SC24-3-4	実施基準案 (8章、9章) とSSG-25比較表
P6Ph2SC24-3-5	実施基準案 (10章) とSSG-25比較表
P6Ph2SC24-4	今後のスケジュール
参考資料1	第23回PSR分科会議事メモ
参考資料2	改訂文案とSSG-25との目次比較表

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員13名中13名が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録について (P6Ph2SC24-1)

成宮幹事より、前回議事録の紹介があり、承認された。

(2) 人事について (P6Ph2SC24-2-1、2)

成宮幹事より、以下の人事案件が紹介され、審議の結果、新委員および新常時参加者が承認された。また、退任委員の報告があった。

- ・ 委員の承認
山崎 浩 (日本原子力発電 (株))
- ・ 委員の退任【報告事項】
服部 正次 (日本原子力発電 (株))
- ・ 常時参加者の承認
福永 健司 (九州電力 (株))
- ・ 退任常時参加者【報告事項】
なし

(3) 改訂文案について (P6Ph2SC24-3-1、2、3、4、5)

各章の改訂文案について、各担当から説明があり、議論の結果、以下のとおり意見・コメントがあった。

- a. 第1章 (適用範囲) (説明：成宮幹事)
 - 「発電用軽水炉原子炉施設」と限定した表現した。
 - 「安全因子の適切性、有効性」であると、「安全因子」を調査・評価するように読めるため、表現の明確化をすること。
- b. 第4章 (PSRの実施目的) (説明：成宮幹事)
 - もっとプロアクティブに感じ取れる文章表現とすること。
 - 次の10年の安全を担保できるように。
 - 結果として、10年の安全を見出せるような形。
⇒ (PSR見える化したグラフのように) 急改善のところを目的としたい。
 - ・ 委員のうち、事業者以外の方々必須で文案検討となった。
(事業者についても、意見を検討する。)
- c. 第5章 (PSRの実施原則) (説明：成宮幹事)
 - 10年がレビューの適切な間隔であることの理由を解説として記載すること。
 - 長期の定義も違う視点から明確化すること。
⇒5.1 および 5.2 の記載整理、充実化することとなった。
- d. 第6章 (PSRの実施計画策定) (説明：成宮幹事)
 - 第三者評価などのシステム的な確認などが必要
⇒第三者評価について、記載の充実化を図る。

e. 第7章 安全因子の適切性・有効性のレビュー

- (a) 7. 2 安全上重要な構築物、系統及び機器の状況（説明：渡辺（哲）委員）
 - ・グットプラクティスに対する比較は通常の確認では行っていない。
 - ・弱点の抽出をストレステストの手法で行うのではないか。
- (b) 7. 6 確率論的リスク評価（説明：倉本委員）
 - ・PRAのハザード，手法が全て確立したものではない。
 - ・データベースの有効性についても追記すべきではないか。
- (c) 7. 9 他のプラントでの経験並びに研究結果の利用（説明：渡辺（沖）委員）
 - ・具体的な事例を追記するとわかりやすいのではないか。
 - ・前々からやらされ感が強い部分であるため，少し具体的な中身を記載または，解説で記載するよう検討すること。

以上の議論の結果，7章については，以下のとおり宿題となった。

- 安全性向上させるための改善が抽出されるように，具体的内容が必要。
 - ⇒上記のとおり，安全因子ごとに，具体的な内容（「output」のサンプル及びレビューの「視点」）を注記として書き込む。

f. 第8章（総合的評価），第9章（レビュー後の活動計画）（説明：成宮幹事）

- 前提として，ミニマムは守られているが否定的な調査結果の記載を見直すべき。
- 5章の総合評価の部分への明確化との兼ね合いも検討すべき。
 - ⇒上記2点のとおり，文案について修正することとした。

g. 第10章（報告書の作成）（説明：平川委員）

- 5章の責任者とのリンクを明確にすべき。
- 規制機関に関する記載を見直し。
 - ⇒上記2点のとおり，文案について修正することとした。

(4)スケジュール確認（P6Ph2SC24-4）

当初，7/9 および 7/29 と計画していたが，基準文案の上位期間への確認期間確保を目的として，以下のとおり予定を変更した。

- ・次回 PSR 分科会：7月9日（火）13:30～ 東大工学部 8号館 809号室
- ・次々回 PSR 分科会：7月24日（月）13:00～ 東大工学部（詳細は別途）

(5)その他宿題

- 安全性向上評価とPSRの関係について（成宮幹事）

以 上